

第4章 新たな時代の食育推進へ

前版「食教育推進計画」に基づく取組で、横浜市立学校における児童生徒や教職員の「食」に対する意識は、着実に高まってきています。何よりも全校に「食育の全体計画」ができたことで、だれもが食育に取り組むことができる環境が整いました。

また、前章にも示されている通り、学校給食はもとより、さまざまな機関、関係部署との連携により、教材、授業形態も、児童生徒の実態に合わせて展開できる可能性が多用に広がってきました。さらに、横浜市食育推進計画の策定など、学校をとりまく食に関する社会的環境が整ってきていることも大きな力になっています。

これからの5年間は、食に関する取組が、日々の教育活動に自然に位置づけられ、食育実践が行われていることが「当たり前」の横浜市立学校を目指していきたいと思います。

そのためにも、今ある環境を有機的に結びつけ、各学校の実状に応じて、効果的に活用できるシステムを整えていきます。

小学校や特別支援学校では、食育推進の中核となっている栄養教諭、学校栄養職員の連携や活動を支援し、配置校も未配置校も同じように食育の取組が進められるようにネットワークを広げていきます。

中学校、高等学校では、横浜マリノスや関係諸機関等の出前食育授業をはじめとする、地域の教育力を活かした取組をさらに進めていきます。また、栄養教諭や各区福祉保健センターの管理栄養士などの専門職とも連携をとり、各学校がそれぞれの実態に即した食育が進められるように、環境を整えていきたいと思います。

しかし、子どもを取り巻く「食」は、日々変化してきています。子ども達の生活改善よりも早いスピードで「食」が変化していることも感じます。便利なもの、簡単なものが重宝がられ、「食」もまた、早く、簡単に済むものがありがたいと考えられる傾向があるようです。新しいものへの変化も激しく、今まで無かった食材、メニューが次々に現れてきます。

わたしたちは、あくまでも「健やかな体の育成」のために、さらに、さまざまな人との関わりや、生活習慣の改善を通じた「豊かな心の育成」「確かな学力の育成」に寄与するための食育を進めていきたいと考えています。

そのためにも、食育実践推進校を中心に、新たな食育実践に取り組み、各学校がそれぞれの子どもの実状にあった食育を進め、それを相互に情報発信しながら、さらに食育の可能性を広げていきます。変化する社会に対応し、子ども達の「健やかな体の育成」を実現する、そんな新しい時代の食育を視野に入れながら、これからの「学校における食育」を推進していきます。

平成23年4月